2012 年 12 月 31 日発行

点訳通信

76 号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作係直通）
TEL 06-6441-0015(代表) FAX 06-6441-0095

先日、お花をいただくことがあり、久々に花瓶を出してきて部屋に飾りました。

すると、ふわーっと花の香りが漂い、いつもより部屋の中が明るくなったようで、気持ちも軽やかになりました。やはり、生活の中に花があるといいものですね。

年末年始にかけて、あちこちで花を見る機会も多いと思いますが、花々からエネルギーをもらって、2013 年をスタートさせましょう。

（点字製作係　奥野真里（おくのまり））

【お知らせ 】

１２月２７日（木）ボランティア活動最終日
１月　８日（火）ボランティア活動開始日
１月１２日（土）振替休館
３月　８日（金）ボランティア交流会総会
３月２０日（水）休館（春分の日）

(C)WANPUG

目次

◆「教科書点訳連絡会セミナー」報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
◆「英語点訳講習会」が終了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
◆ 読者からのお手紙をご紹介します！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

●「教科書点訳連絡会セミナー」報告

英語点字学習が抱える現状と課題

点字製作係　奥野真里（おくのまり）

去る11月23日（金）、愛知県図書館において、「英語点字指導の現状～もう一度英語略字を問い直す」というテーマで、教科書点訳連絡会のセミナーが開催されました。

４人の講師から英語点字学習の現状について発表があり、後半は講師の話を受けて参加者の情報交換が行われました。

まず愛知県立名古屋盲学校・溝上弥生（みぞがみやよい）先生の「支援学校における英語点字教育の現状について」。次に日本福祉大学の学生・橋本育実（はしもといくみ）さんの「自身の学習体験談」。その後、製作者の立場から、東京点字出版所・白井康晴（しらいやすはる）さんが「特別支援学校用高校英語教科書の点訳の工夫点」を発表されました。最後は、独立行政法人特別支援教育総合研究所・田中良広（たなかよしひろ）先生の「現在の支援学校中学部用英語教科書の編集方針」についての報告でした。講師の話の内容はそれぞれ異なりますが、どれも私たちが今抱えている英語点字学習の問題に密接につながっていると思いました。

特別支援学校では、中学２年から英語略字を段階を踏みながら習得していきます。これまでは約200の略語・略字を６段階に分けて習得していましたが、24年度に中学部の教科書が改訂になったことに伴い、７段階に変更されました。

新しい段階順序は次のとおりです。

第１段階：１マス短縮語
第２段階：２マス短縮語
第３段階：１マスと２マスの短縮部
第４段階：省略語Ⅰ
第５段階：省略語Ⅱ
第６段階：下がり記号の短縮語
第７段階：下がり記号の短縮部

それぞれの段階の内容についての詳しい説明はここでは省きますが、これまでと大きく異なるのは、１マスと２マスの短縮部の導入が第５段階から第３段階に変わったことです。この段階に沿って学んでいくと、一部弊害も生じます。

たとえば、about の略語 ⠁⠃⠞ は第４段階で学ぶため、第３段階を学習した

時点では ou（ ⠳）の略字を使用し、 ⠳⠕⠥ と略すことになります。

つまり、本来の略し方を学ぶまでは、一時的に別の略し方をすることになるのです。このことについて、あくまで一時的な使用なので、さほど問題なく本来の略し方を新たに学習していけるだろうというのが先生方の見解のようです。どのような段階を踏むにしても一長一短はあると思います。今後、新しい段階に切り替わっての生徒の反応もまたお聞きしたいところです。

そのほか、特別支援学校での学習で、略字を習得する上でつまずきやすいポイント、間違いやすいポイントについて例が挙げられました。つまずきやすいポイントとしては単語中に１マス・２マスの短縮部を使用するようになると少し混乱する生徒もいるようです。たとえば、and のように１マス略語としての用い方と、candy の中の and の短縮部の用い方の違いが分かりにくいということでした。

また、間違いやすい例として、received （ ⠗⠑⠉⠑⠊⠧⠑⠙） を ⠗⠑⠉⠑⠊⠧⠑⠙ としたり、year（ ⠽⠑⠁⠗⠲） を ⠽⠑⠁⠗⠲ と覚えてしまうこともあるようです。支援学校では、このようなミスを教員がすぐに生徒にフィードバックして修正しています。

現在は、英語略字を使用する生徒と使用しない生徒がおり、高等部の教科書は略字とフルスペルを併記したものが製作されています。しかし、現在でも大学進学を目指す学生には英語略字が必須という状況に変わりはないようです。

日本福祉大学の橋本さんは略字を覚える際、単語のスペルもいっしょに書きながら練習したそうです。今振り返ると、書くことで学習できたように思うと話していました。ただ、略字を覚えることに集中しすぎて、いざフルスペルを書かなくてはならないとき、すぐ思い出せず困ったという苦い経験も語ってくれました。

情報交換の場では、現在の点字辞書にはどのようなものがあるか、電子媒体からペーパーの辞書に至るまで、さまざまなものが紹介されました。また、今後地域の学校で学ぶ生徒への英語点字指導をどのように行うべきか、略字に苦手意識を持たせずに導入していく方法について議論されました。

中学から否応なく導入される英語略字。これは、早く英語を読み書きするためには必要なものに違いありません。ましてや、地域の学校で学ぶ生徒にとっては、目の見える生徒と同等のスピードで読み書きをこなさなくてはならないわけですから、略字は非常に合理的なものだと思います。生徒たちがスムーズに英語学習が行えるようにその環境を整えていかなくてはなりません。その支援の一端を担う私たちも、英語の学習書・参考書などを、個々の生徒に応じて点訳していかなくてはならないと感じています。

●「英語点訳講習会」が終了 —— 受講者の感想

10～11 月に、 全５回にわたって英語点訳講習会を行いました。短期間ではありましたが、６人の方が英語点訳の基礎を学び、終了後、早速練習も兼ねて実践に入りました。
２名の受講者の方からいただいた感想をご紹介します。

読み手側の感覚から多くのことを学ぶ

点字製作ボランティア　福井真由美（ふくいまゆみ）

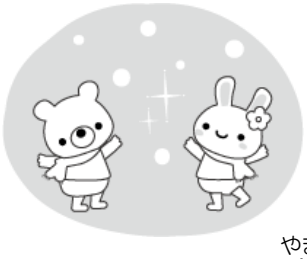
講習は２か月間、隔週で全５回でした。テキスト『初歩から学ぶ英語点訳（四訂版）』の「第一部学習編」を、２レッスンずつ学習する流れで進みました。

次回の講習までいつも２週間ありましたので、前回の内容を復習しながら、少しずつ覚えていくことができました。興味を持ちながらも今回ご都合により講習を受けられなかった方も、同じ教科書をこのペースで進めていけば、学習できるのではないかと思います。

とはいえ、講師の小原さんによる、長年の経験に基づく注意点や、読み手側の感覚は、普段なかなか聞けないものであり、そこから学ぶことも大変多かったです。

また、学習は終えましたが、定着し運用していけるまでになるには、実際の訓練がまだまだ必要なようです。忘れがちな略語や、略語を使ってはいけない場合、使ってはいけないはずなのに慣用的に使える例、等々。今は講習を受けた皆さんと、全員で１冊の本を点訳していますが、悩むところはたくさんあります。

冷や汗が出る思いですが、通常の点訳を習いたての気分と同じと考えて、気負わずに落ち着いて点訳していきたいと思います。



１冊は英語点訳してみたい

点字製作ボランティア　山口節子（やまぐちせつこ）

英語点訳、マスあけを考える必要がないということは、老いて固まってしまった私の頭でも何とかなるんじゃないかと、それでもちょっと無謀かもしれないと思いながら講習会に参加させていただきました。

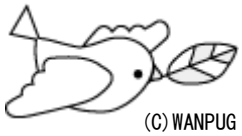
案の定、頭はパニック状態に。１マス略語や略字、低下略字に略語、使ってよいところと、使えないところ、その他いろいろなルールがたくさんあって、こんなにやや

こしいものだったとは思いもしませんでした。

やっと３回目ぐらいから要領が少しつかめてきたかなと思っていると、最初に習ったことをさっぱりと忘れていたりして、なかなか大変でした。宿題もあったし、予習をちゃんとやっておかなければ当てられたときに困る、と思ってがんばりました。宿題は完璧にできたと思っていたのにチョコチョコとミスが見つかり、落ち込んだこともありましたが、そこは忘れっぽい性分が幸いして、最後まで続けることができました。

５回の講習が終わったとき、なんだかホッとしたのも事実です。歳をとってから新しいことにチャレンジするのは勇気がいりましたが、受講の機会を与えてくださったことに本当に感謝しています。これからは習ったことを忘れないために、脳トレのつもりで、この情文センターに通って来られるうちに、１冊だけでいいので、英語点訳してみたいと思います。

● 読者からのお手紙をご紹介します！



皆さまには幅広いジャンルに渡って多くの図書を点訳していただいていますが、気になるのは読者の反応。たまにお便りがあると、とてもうれしいですね。
読者からの最近のお手紙を２通ご紹介します。

いい図書を手がけていただき、感謝しています

『金正日と金正恩の正体』

（77 歳・男性）

このたび、李相哲（りそうてつ）著『金正日（キムジョンイル）と金正恩（キムジョンウン）の正体』を拝読しました。誠に興味深く読ませていただきました。たいへんいい図書を手がけていただき、ありがとうございました。

私は現在 77 歳ですが、生まれたのは中国・東北部（旧・満州大連市）で戦後引き上げてきました。それだけに周辺諸国の情勢には敏感ですが、他の国に比べて北朝鮮は特別に不透明なところがあり、つかみどころがないという感じです。金正日亡き後、長男・正男（ジョンナム）ではなく異母弟の三男・正恩が後継者に選ばれた経緯や今後の見通しなどを推し測るのに、本書はたいへん内容が充実していたように思います。

南北の緊張も元はといえば日本の朝鮮併合が遠い原因となって、38 度線で分断されたことが災いしているものと思われますので、迷惑がってもいられないかもしれませ

ん。その意味でもいい勉強になりました。これからも、このようないい図書を点訳してくださるようお願いします。

触ったときにすごく分かりやすかった点字教科書

（６年男子生徒）

いつも点訳をしてくださいまして、ありがとうございました。

算数では、図形の形を描いて、その横に数字などがあり、触ったときにすごく分かりやすかったです。新しく出てきた記号などの下に墨字の書き方も書いてくれていて、墨字の書き方が少し分かりました。

社会では、グラフのとき太い線、細い線が分けられており、ここは縦の線、ここは横の線などと分かりました。また、分かりにくい状況の写真も詳しく文章に直してくれて写真の意味、そのときの状況が分かりました。

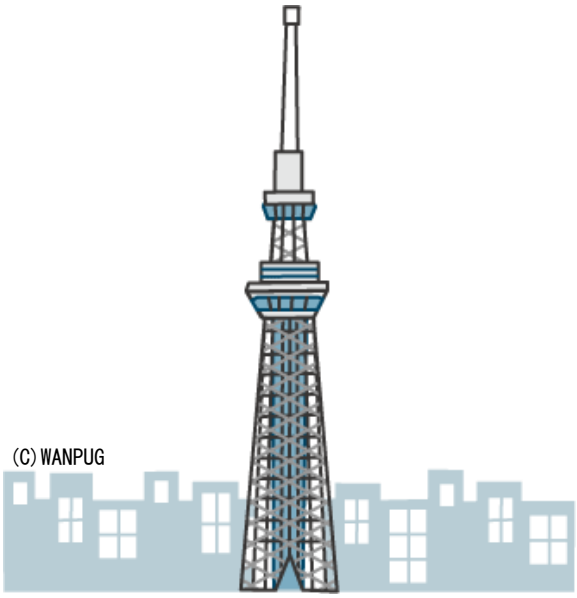
理科も写真の説明を詳しく書いてくれてとても分かりやすかったです。

国語も資料などでは、枠で囲んでもらい、ここからは資料でここで終わりなどと分かりました。

ありがとうございました。

●「点訳技術講習会」の前期が終了しました

１０月５日から開講している点訳技術講習会の前期が終了しました。

前期は主に、点字の書き方、分かち書きについて勉強しました。後期には、さらに詳しく複合語の分かち書きを学び、レイアウトの方法やパソコン点訳を練習します。

講習を終えられた方には、今春からボランティア活動に参加していただく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。